

初等中等教育における「生徒指導」の捉え方の 変化に関する研究

— 教員養成課程に所属する大学生の記述を通して —

胡 田 裕 教[†]

Changing Ways of Understanding Elementary and Secondary
“Student Guidance and Counseling”: A Study of Descriptions by
College Students Receiving Teacher Training

EBITA Hiroyuki

Abstract

The purpose of this study is to examine the changing understanding of teacher trainees of what they consider the most important function of student guidance. The study asked this question, before and after lectures, to students who are aiming to become teachers.

Through this research, we aim to improve educational practices in elementary and secondary education and also university-level lectures for teacher training in the modern knowledge-based society.

As a result, the study suggests that in areas a person considers important that position may affect the person's ability to be her or himself, and may also affect the breadth and depth of range in the area given priority.

[†] 大阪産業大学 全学教育機構 教職教育センター 非常勤講師

草 稿 提 出 日 2月26日

最 終 原 稿 提 出 日 3月16日

キーワード：初等中等教育，生徒指導，教員養成課程，大学生

Keywords: elementary and secondary education, student guidance and counseling,
teacher training, college students

1. 問題の所在と目的

情報伝達の急速化に伴い，世界中どこにいても情報が瞬時に駆け巡り，われわれはそれを容易に収集することができる世の中になった。そのようなグローバルな社会において知識基盤社会が構成されている。そこでは，さまざまなものが急速に変化し，常に新しい課題に対応することが求められる。現在に生きる子どもたちは，そうした社会で生き抜く必要に迫られている。そのような背景のもと，日本の教育はどのような道を歩むべきなのだろうか。今，学校教育の在り方が問われている。学校教育を成立させる重要な教育活動として学習指導と並んで生徒指導がある¹⁾。生徒指導提要（文部科学省，2010）では，「生徒指導とは，一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら，社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと」としている。また，2018年に改定された高等学校の学習指導要領では，第1章総則第5款「生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実(2)²⁾」において，教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育て，ガイダンスとカウンセリングにより生徒の発達を支援することとしたうえで，「生徒が，自己の存在感を実感しながら，よりよい人間関係を形成し，有意義で充実した学校生活を送る中で，現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう，生徒理解を深め，学習指導と関連付けながら，生徒指導の充実を図ること」（文部科学省，2018）としている。

これらより，生徒指導とは，人格³⁾の形成や社会の創造者・担い手としての社会性の育成を図り，個人（自己）と他者，あるいは社会との関わりの促進を目指しながら自己実現を果たすために教師が指導・援助する教育活動ということがいえる。

これらの教育活動に教師たちはそれぞれの教育現場で懸命に対峙している。現在の学校教育の中では，いじめ，不登校をはじめとしたさまざまな問題が山積の状態にある。また，「働き方改革」が叫ばれている中，勤務時間の長さなどが問題視されている。そうした変革期ともいえる現在の教育の世界に，これから足を踏み入れようとする学生は貴重な存在ともいえる。本研究は，これからの学校教育を担う教師を目指す学生にとって，「生徒指導」⁴⁾という教育活動はどのように映っているのか，また，どのように捉えているのか，という観点に着目して受講前・受講後における変容を分析，考察していくものである。したがって，本研究の目的は，教員養成課程の授業を通して，「生徒指導」の機能の

捉え方や理解の仕方の変化を分析することで、初等中等教育の教育現場における実践の改善，並びに教員養成課程や教職課程における今後の講義改善に資する実践研究を目指すことである。

教師を目指す学生に対する講義に関する論考の中でも、「生徒指導」に関する講義前・受講後の変容について分析した先行研究として、関口（2016）や三島（2019）がある。関口（2016）では、生徒指導の授業前と授業後に行った調査から、否定的なイメージから肯定的なイメージに変化することを明らかにしている。また、三島（2019）では、講義前・受講後に行った調査より、生徒指導イメージの8因子のうち、「指導の難しさ」「一方的な指導」「個に応じたきめ細かな指導」「間違いを正す」「やりがい」の5因子が有意に高まり、生徒指導イメージが講義を通して高まることや多面的になる可能性を示唆した。そこで、本研究では、授業前・受講後におけるイメージの変容ではなく、授業前・受講後において大切であると思う「生徒指導」の内容についての変化を検討することにした。次世代に教師として巣立っていく学生が講義を通して獲得した生徒指導への思いは、そのまた次の世代に受け継がれていく可能性があることより、本研究はこれからの学校教育の生徒指導にまつわる実践や研究において意義のあることだと考えられる。

2. 研究方法

（1）調査対象等

201X年度、教員養成課程の初等教育数学専攻に所属する教育実習を終えたばかりの3年生57名を対象にした。その学生たちに対して「生徒指導」に関する半期（後期）の授業を行った。授業で取り扱う「生徒指導」の内容は、進路指導やキャリア教育を含めた内容で、広義の生徒指導として授業を行った。このことは、最初に学生に伝えている。

（2）調査時期

調査時期は、初回の授業（オリエンテーション）を行った10月と最後の授業を行った2月である。特に、初回の授業の調査については冒頭に実施した。

（3）調査項目

第1回目の授業の最初（受講前）に、「『生徒指導・進路指導・キャリア教育』にとって何が重要だと思いますか。一つ選んで自由に書いてください」という質問と、最終回では、これまでの授業を通して、自分の振り返り記述等も参考にしながら、総合的にみて「『生徒指導・進路指導・キャリア教育』にとって何が重要だと思いますか。一つ選んで自

由に書いてください」という質問それぞれに対する回答について調査した。

(4) 授業について (その全体像と背景)

授業の内容を示したものが表1である。前述した通り実施した授業の内容は生徒指導、進路指導、キャリア教育で構成されている。その中で、受講の振り返り記述を実施した。振り返り記述の構成は次の通りである。①第1回目の授業の最初(受講前)に、「『生徒指導・進路指導・キャリア教育』にとって何が重要だと思いますか。一つ選んで自由に書いてください。」という問いに対して記述する。②毎回の授業の終わりに、講義の中で、一番大切だと思ったことを3行程度にまとめて記述する(15回分)。③受講後の質問事項を記述する。(これは、講師に対する質問というよりも、自分に対する質問のことで、次回までに各自調べてくるという位置づけの項目)④最終回では、これまでの授業を通して、自分の振り返り記述等も参考にしながら、総合的にみて「『生徒指導・進路指導・キャリア

表1 「生徒指導」に関する授業の内容

回	各授業の内容
第1回	オリエンテーション(シラバス確認、授業の進め方や生徒指導・進路指導・キャリア教育の概要の説明)
第2回	「生徒指導とは何か」その位置づけと意義の発展過程など
第3回	「生徒指導とは何か」生徒指導の現状と課題(集団指導)
第4回	「生徒指導とは何か」生徒指導の現状と課題(個別指導-いじめの問題)
第5回	「生徒指導とは何か」生徒指導の現状と課題(個別指導-不登校等の問題)
第6回	「進路指導とは何か」その位置づけや意義、歴史、活動について
第7回	「進路指導とは何か」進路指導の現状と課題(児童生徒理解の方法と自尊感情について)
第8回	「進路指導とは何か」進路指導の現状と課題(自尊感情を高める授業について 学習指導案作成)
第9回	「進路指導とは何か」進路指導の現状と課題(自尊感情を高める授業について 学習指導案発表)
第10回	「キャリア教育とは何か」その意義や歴史、歩み・キャリアカウンセリングについて考える
第11回	「キャリア教育とは何か」キャリア教育の取り組みの現状と課題(貧困問題、キャリアプランについて考える)
第12回	「キャリア教育とは何か」キャリア教育の取り組みの現状と課題(キャリア発達理論について考える)
第13回	「キャリア教育とは何か」キャリア教育の取り組みの現状と課題(キャリア教育の実際-小・中・高等学校の実践)
第14回	「キャリア教育とは何か」キャリア教育の取り組みの現状と課題(特別支援教育におけるキャリア教育・労働問題について考える)
第15回	「生徒指導」、「進路指導」、「キャリア教育」の総まとめ

ア教育』にとって何が重要だと思いますか。一つ選んで自由に書いてください。」という問いに対して記述する。以上の4項目である。また、形式としては、A4版用紙1枚に集約したフォーマットに毎回記述することとし、いままで自分が記述した内容がすぐに確認できる状態にしている。この取り組みは、「一枚ポートフォリオ評価」（2013, 堀）を参考にしながら、筆者が改良を加えて作成したものである。「一枚ポートフォリオ評価」の考え方について、堀（2013）は、学習履歴として記述することで、「『既知』と『未知』との葛藤や調節という相互作用を経ながら『既知』なるものが組み替えられていく」とし、それは、「構成主義の考えに基づく学習・授業観を背景にしている」としている。また、「学習の成果を適切にみとるパフォーマンス評価の導入」であると提案者の立場から述べている。

3. 結果

「生徒指導」に関する授業の中で、第1回目の授業の冒頭と第15回（最終回）の授業の終わりにそれぞれ実施した「『生徒指導・進路指導・キャリア教育』にとって何が重要だと思いますか。一つ選んで自由に書いてください」という質問に対する回答について調査した。

その結果、自分で一つを選択した上で、記述を行った領域（ここでいう「領域」とは、「機能か領域か」という二者比較で使用する場合の「領域」ではなく、一般的な「領域」のことをさす。以下同様）の受講前・受講後の人数を示したものが表2である。表2では、受講前には生徒指導に関する記述が多かったことがわかる。また、受講後にはキャリア教育に関する記述が大きく増えたことがわかる一方で、生徒指導に関する記述も多いことがうかがえる。受講後の人数としては進路指導が最も少ない結果となった。また、大切だと考える内容の領域を記入する箇所に「すべて」、「信頼関係」と記述した回答がそれぞれ1名ずつあった。

次に、受講前・受講後で選択した領域の変化の動向の詳細を示したものが表3である。表3は、表2の内訳を示したものである。ここでは、多くの学生が生徒指導に関する記述からキャリア教育に関する記述、また、進路指導に関する記述からキャリア教育に関する記述へ変わったことがわかる。その一方で、受講前に生徒指導に関する記述をしていた学生の約半数が受講後も生徒指導に関する記述のままであることもわかる。

次に、表3をもとにして、受講後での領域の中で人数が多く表れた上位3つの項目である「生徒指導→キャリア教育」、「生徒指導→生徒指導」、「進路指導→キャリア教育」の中から代表的な回答を取り上げたものが表4である。

表2 「一番重要であると思う」領域の受講前・受講後の人数

	生徒指導	進路指導	キャリア教育	(「すべて」・ 「信頼関係」)
受講前	39名	12名	6名	
受講後	24名	3名	28名	(2名)

表3 各領域による受講前・受講後の変化の動向(詳細)

受講前 ↓ 受講後	生徒指導			進路指導			キャリア教育			
	進路指導	キャリア教育	すべて・ 信頼関係	生徒指導	生徒指導	キャリア教育	進路指導	生徒指導	進路指導	キャリア教育
人数	3名	15名	2名	19名	4名	8名	0名	1名	0名	5名

表4 受講前・受講後の回答例

	領域	記述内容
Aさん	受講前 生徒指導	生徒に対して自分の考えを押し付けるのではなく生徒本人の考え方や行動の理由をしっかりと聞いた上で解決策や考え直して欲しいことを伝える。生徒が悪いことをしたときのみには指導するのではなく、称賛される行いに対しても積極的に関わること。
	受講後 生徒指導	指導を行う上で様々な「つながり」を作ることが重要であると考えている。生徒や保護者そして自己を理解するためにも確かなつながりを形成し連携を取りながら信頼関係を築いていくことが大切である。様々な人に積極的に関わり助け合える「つながり」をもつ教師でありたい。
Bさん	受講前 生徒指導	生徒の意見を聞き、その目線に立ちつつ、考えることが重要だと思う。押し付けでは納得できないし、信頼を得て話をしていくことが大切だと思う。
	受講後 キャリア教育	キャリア教育は未発達であり、まだまだ改善の余地があると思う。教師は自分の人生経験だけで生徒に対して語るのではなく、 <u>多様な視点の提示とそれを伸ばしてあげることが大切だ</u> と思った。
Cさん	受講前 生徒指導	学校内で校則を守ることは人間として大切なことであり、成績も大事だがその生徒の今後の生き方に関わってくることなので生徒指導が一番大切だと考える。人と人との関わりを大切にしながらその生徒と上手に向き合い、よりよい人生を歩ませていくことが望ましいと考える。
	受講後 キャリア教育	受講前は生徒指導が最も重要だと考えていたが、この講義を経て、キャリア教育が大切だと考える。 <u>生徒の今後の未来を一番変えていける可能性があり</u> 、生徒の夢について考えるキャリア教育は今の学校にとって最も大切であると感じた。

初等中等教育における「生徒指導」の捉え方の変化に関する研究（胡田裕教）

		領 域	記 述 内 容
Dさん	受講前	生徒指導	進路指導やキャリア教育も大切だと思うが、普段の学校生活の中で困っていることがあるなら、その解決を一番に優先すべきだと思う。そのため、相談という形で子どもに対して一対一で向き合うことが大切だと思う。
	受講後	キャリア教育	時代によって子どもが求められる能力は変わる。その中で、 <u>キャリア教育も変わっていかねばならないため教師はどのような指導が適切であるか考えることが重要</u> である。
Eさん	受講前	生徒指導	進路指導、キャリア教育も重要であると思うが、結局は人としてきちんとしていないといけないため、生徒指導が最も重要であると思う。社会のルールや周りの人との関わり方などが必要である。
	受講後	キャリア教育	子どもと教師が主体となって行動することが重要だと思う。子どもだけが主体だと現実的な事が考えられないし、 <u>教師だけが主体だと子どもの将来を勝手にコントロールしてしまう</u> 。子どもの想いを大事にしつつ、教師がフォローしてあげるようにすることが大切であると考えた。
Fさん	受講前	進路指導	生徒第一であること。実績を残すことよりも生徒がどこに行きたいか、何になりたいかを重視すること。各大学の特徴などを細かく調べておくこと。生徒の一生を左右するかもしれないという意識を持つこと。
	受講後	キャリア教育	児童生徒が自分の力で問題解決をしたり、社会で生き抜く力をつけることができるように、その子どもに合わせた支援を行うこと。全面的に何もかも支援するのも、 <u>学校のカリキュラムをただ形式的に行うのも児童生徒のためにはならない</u> 。何が必要か、何をすべきかを考え行動することが大切だと思う。
Gさん	受講前	進路指導	高校における進路選択は、今後の人生においてとても重要なものだと思う。したがって、学校の教師は、世の中の仕組み、職種、その特長などをしっかりと理解し、子ども一人一人に合わせた提案ができるようにすることが重要だと思う。
	受講後	キャリア教育	受講前は、進路指導について書いており、それも大事なことであるというのは変わらないが、キャリア教育も進路指導の中に含まれていると知った。キャリア教育では、「今何をするか」も大事だが、「これから自分の将来を決めるときにどのように行動するか」という能力を子どもに <u>身につけさせることが大事</u> である。
Hさん	受講前	進路指導	生徒一人一人、やる気を出すモチベーションやきっかけは違うので、その生徒の性格を見極めた上での指導が大切だと思う。実際、高校受験、大学受験において、励ましてくれる先生よりも危機感を示してくれる先生の言葉に対してやる気が出た。
	受講後	キャリア教育	生徒指導や進路指導は、子ども側から働きかける場合が多く、教員側は支援する立場で行うが、キャリア教育は教員側からの働きかけに対して子どもが考えるということで、 <u>教員側の働きかけの力量が問われるもの</u> であると考えた。

(下線は筆者)

4. 考察

結果についてそれぞれ考察していくことにする。

表2の各領域における受講前・受講後の人数では、キャリア教育に関する受講前の記述が少なかったが、これは教育実習を終えたとはいえ、まだ、キャリア教育に関する知識が乏しく、何をもってキャリア教育といえるのかという判断ができ兼ねる状態であったことが予想される。また、受講前にキャリア教育について記述をした学生は6名いたが、その全員がインターンシップ・職場体験に関する記述であったことより、〈キャリア教育＝インターンシップ〉という固定された認識が学生の中に存在していたのかもしれない。あるいは、教育現場において現在もそういった認識が存在し、それが学生の記述につながったのかもしれない。確かに、インターンシップはキャリア教育の射程する内容であるが、決してそれだけではない。一方、受講後にキャリア教育に関する記述が他の領域よりも多くなったことについては、時系列的にみると、授業の進め方としてキャリア教育を最後に取り上げたことで、最終授業時点からすると記憶に新しかったことによる可能性がある。ただ、最終授業は、今までの授業全体のまとめであることより、すべての領域について改めて取り上げている。いずれにしても、最終的に一番多くの学生がキャリア教育について記述したことになる。これは、開発的な教育活動であり、生き方全体を指し射程範囲が広いということが考えられるのではないか。また、生徒指導については、受講前・受講後において多くの記述があった。これもキャリア教育と同様に、その領域が射程とする範囲が広く、普段の生活の中に密着し溶け込んだ内容であることが影響しているであろう。また、受講後の進路指導に関する記述が少ないことについては、生徒指導とキャリア教育が多いことに関連していると思われる。つまり、対象となる期間の長さに影響しているのではないかということである。進路指導は中等教育段階である中学校、高等学校に限定された教育活動であって対象期間が短い。それに加えて受講している学生は初等教育段階で教員を目指している学生たちであることより、近い将来教員として働くことを考えた場合、自分事になりづらかったことが要因として挙げられる。また、「すべて」、「信頼関係」と記述した回答については、多様性の観点と重要な意味を持つものとして敢えて調査結果に含めた。本研究の場合、大切だと考えた内容についてラベリングを施したものとして、生徒指導、進路指導、キャリア教育が存在する。しかし、それぞれの機能がすべて独立しているのではなく重なり合っている部分もある。その重なり合った部分について記述し回答したものと考えられる。重なり合っている部分については、前者では、「知識」、後者では、回答どおり「信頼関係」であった。

表3は、受講前・受講後での領域の詳細な動向を示している。生徒指導、進路指導それ

どれからキャリア教育に変えた学生が多くいたが、これは、表2についての上記で記述した内容以外で考えると、学生が考えていたキャリア教育の概念について、受講前より幅広く捉えることができるようになったことが要因に挙げられるのではないかと。つまり、受講するまではキャリア教育であるという認識がなかった教育活動もキャリア教育に含まれることがわかったということが考えられる。以上、表2、表3から考えられることをまとめると、自分が大切であるとする領域について、自分の立ち位置によって自分事になりえるかどうかの影響する。また、領域に関する射程範囲の広さや深さにも影響しているのではないかと。ということである。

次に、表4の受講前・受講後の記述について、全体的にみると、受講前の記述は学校教育の中で重要な視点ではあるが、教育界でよく耳にする内容、一般的な内容の回答に感じられる。一方、受講後については、「自分の言葉」による回答に変化している。つまり、自分事へとつなげながら内容に幅と深さを感じられる回答に変化していることがうかがえる。また、個別にみていくと、個々の視点の違いが明らかになっている。それぞれ受講後の記述内容に目を向けると、Aさん、Bさんの回答からは、多様な他者との出会いの中で、自己について学習することの重要性を包含していることがうかがえる。また、Cさん、Dさん、Eさん、Fさん、Gさん、Hさんの回答では、未来志向の観点から、育成すべき資質能力から教育内容や教育方法をあらかじめ規定するアプローチの是非に関連した内容になっている。広義の生徒指導においてそれぞれ重要視される問題が含まれている。それぞれの回答から、問題解決に至る道筋を考えた場合、それがどういう意味を持つのか、あるいは、その理論的根拠はどこにあるのかということを考えなければならないだろう。前者の「他者を通して自己の生き方を学ぶ」では、その手がかりの一つになり得るものに、「再帰性」という概念が考えられる。中西(2003)では、「自己を他に映し出すことによって再び自己に帰って自己を規定する概念」としている。これからの時代、今まで以上に他者との関わりについては重要性が増していく。そういう時代の学校教育では、「生徒指導」を中心に他者を通じた学びについて再考する必要があるだろう。また、後者では、規定されたカリキュラムの意義を問う内容である。ここでは、援助者-被援助者などの二項対立図式を組み替え、異質なものの間の葛藤を含んだ関係を追究しようとするポストコロナルの視点(小玉, 2010)がその手がかりになるのではないかと。規定されたカリキュラムでは、教師-学習者という枠組みで捉えたならば、そこに主従関係が成立し、教育の目的の一つである学習者の主体性というものが達成できない可能性がある。そういった教育の暴力性ともいえる状態が存在する。だからといって、教師は何もしないわけにはいかない。それは、教育の放棄につながるからである。したがって、その二律背反にみえる現象を乗

り越える視点, そういう視点が重要になってくるのではないか。

5. まとめと今後の課題

本研究の目的は, 教員養成課程の授業を通して, 「生徒指導」の機能の捉え方や理解の仕方の変化を分析することで, 初等中等教育における教育現場における実践の改善, 並びに教員養成課程や教職課程における今後の講義改善に資する実践研究を目指すことであった。

結果と考察より, 初等中等教育における教育現場における実践の改善については, 〈キャリア教育＝インターンシップ〉という認識の可能性が学生や学校現場にも存在しているのではないかという可能性を示した。一方, 初等中等教育における教育現場における実践の改善と大学の講義改善の両方に関わるものであるが, 自分が大切であるとする領域について, 自分の立ち位置によって自分事になりえるかどうかの影響し, 領域に関する射程範囲の広さや深さにも影響しているのではないかということが示唆できた。また, 他者を通して自己の生き方を学ぶ視点やポストコロナルの視点の必要性を示すことができた。しかし, この部分については提案だけに留め今後の課題としたい。そして, 最後に, 本研究で規定した「生徒指導」の3つの領域についての記述回答でその領域の重なり合っている部分についての記述があったが, 多様性を排除しないという姿勢は初等中等教育, 高等教育に関係なく実践上重要な視点である。その上で, それぞれの領域の融合, 重なり合っている部分やそうでない独立した箇所を明らかにすることも研究上必要なことである。これに関しても, 提案だけに留め今後の課題としたい。

本研究で得られた知見は, 教員養成課程の初等教育数学専攻に所属する学生という一つの小さな枠組みでの限られた事例をもとにした結果であることより一般化されるものではない。とはいえ, 現に, 教師を目指す学生の一つの事例ではあるのでおろそかにはできない。研究と実践の乖離が生じないような初等中等教育並びに高等教育の実践に根ざした研究が今後も求められる。

〈注〉

- 1) 学習指導と生徒指導の関係について, 北村(2001)は, 「並列型」という考え方と, 生徒指導を基盤にしてその上部に学習指導が重なるような「基盤型」という考え方があることを指摘している。
- 2) 文部科学省(2017a)『小学校 学習指導要領(平成29年告示)』並びに文部科学省(2017b)『中学校 学習指導要領(平成29年告示)』でも, 第1章総則 第4「児童(生

徒)の発達の支援 1 児童(生徒)の発達を支える指導の充実(2)」において高等学校と同様の記述がみられる。

- 3) 折出(2019)は、人格の概念について、「他者との関わりにおいて自己を示すという対他者的な側面と、われわれの内なる本性という対自的な側面が存在している」(尾関他, 2016)を引用しながら、生活指導・生徒指導の目的は「人格形成にある」というとき、上記の人格の意味をおさえておくことは重要であると指摘している。
- 4) ここでの「生徒指導」は広義の生徒指導をさし、進路指導やキャリア教育を含むものとしている。

〈引用文献〉

- 堀 哲夫(2013)『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社
- 北村徹二(2001)「生徒指導の年間計画」高階玲治編『学校経営相談12ヶ月：第2巻(生徒指導・進路指導)』教育開発研究所
- 小玉重夫(2010)「教育思想史におけるポストコロニアルの視点」『近代教育フォーラム』Suppl (0) pp.153-161
- 三島知剛(2019)「全学教職課程履修学生の講義前後における生徒指導イメージの変容の検討」『岡山大学教師教育開発センター紀要』第9号別冊 pp.99-108
- 文部科学省(2010)『生徒指導提要』教育図書
- 文部科学省(2017a)『小学校 学習指導要領(平成29年告示)』
- 文部科学省(2017b)『中学校 学習指導要領(平成29年告示)』
- 文部科学省(2018)『高等学校 学習指導要領(平成30年告示)』
- 中西真知子(2003)「再帰性とアイデンティティの観点からの近代化論－ギデンズの再帰的近代化の時間的空間的広がりめぐって－」『ソシオロジ』47(3) pp.103-119
- 折出健二(2019)「第6章 人格の形成と生活指導・生徒指導」春日井敏之・山岡雅博 編著『生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房 pp.90-105
- 尾関周二・後藤道夫他(2016)『哲学中辞典』知泉書館 p.617
- 関口洋美(2016)「「生徒指導」に対するイメージの変化～「生徒指導論」受講前と受講後の比較～」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第53巻 pp.33-43